

第73回山口県中学校体育大会審判会議資料

令和2年10月3日～10月4日 宇部市武道館

1. 試合審判規定

- (1) 「国際柔道連盟試合審判規定(2018年～)」及び「国内における『少年大会特別規定』」により行う。
- (2) 試合時間…3分 ゴールデンスコア(以下「GS」という)は行わない。
- (3) 判定基準
 - ①団体戦の「優勢勝ち」の判定基準は「技有」以上または「僅差」以上とする。
1本(反則勝ち) > 技有 > 僅差
※「僅差」とは双方の選手間に技による評価がない、又は同等の場合、「指導」差が2あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちにするものである。それに満たない場合は「引き分け」とする。
 - ②個人戦の「優勢勝ち」の判定基準は「技有」以上または「僅差」以上とし、それに満たない場合は旗判定により勝敗を決する。

2. 試合についての申し合わせ事項およびIJFルールの特殊な例の解釈

- (1) 本大会は後襟を持つことを認める。
- (2) 本大会の団体戦の代表決定戦に出場する選手は任意に選ぶことができる。平試合にて時間内に「技あり」または「僅差」以上の差がなかった場合は旗判定により勝敗を決する。
- (3) 固め技の攻防で、どちらか一方が試合場外の床や机、椅子に触れた場合には、「待て」を宣告する。
- (4) 選手が接触する恐れがある場合には、安全配慮を優先し、「待て」を宣告する。立技と寝技が交錯する恐れのある場合には寝技を優先する。
- (5) 両者反則負けになった場合、再試合を行う。

3. 大会進行および確認事項

- (1) 審判員の交替
 - ①団体戦は1試合ごとに主審押し出しで交替する。
 - ②個人戦については3試合ごとに主審押し出しで交替する。
 - ③準決勝戦、決勝戦において別に審判割は行わない。
- (2) 主審の交替
団体戦は、主審を男子は2-2-1、女子は1-1-1で交替しながら行う。
- (3) 競技の進行
競技進行については大会要項通り行うが、競技の進行に著しく差が生じた場合は、試合場を変更することがある。その場合は放送で連絡する。

4. 国内における「少年大会特別規定」(抜粋)

『両袖を持って投げ技を施すこと。』は、反則負け(重大な反則)とする。

5. 本大会における申し合わせ事項

いわゆる「絞め落ち」となった選手は、その後の一連の試合に出場することはできない。

6. 新型コロナウイルス感染症対策について

(1) マスクの着用について

大会の再開基準は段階 4 であり、この際の選手はマスクをつけなくてもよい段階なので、基本的に審判員もマスク着用は不要である。試合場に上がらない審判委員はマスクを着用することが望ましい。

(2) 試合中の位置取りについて

審判同士や選手とは、十分な距離（少なくとも 2m 以上の距離）を空けるが、技の判定（特に絞技）の判断には近接での判断が必要な場合もあるので、臨機応変に対応する。原則絞め落ちへの対応については、感染防護措置を施した医師が対応することとする。

※感染症対策で医師・看護師の派遣を行っていない医療機関が多いため、今大会に医師は配置していない。

(3) 試合中の監督・コーチ・選手のコントロールについて

監督や選手、コーチが試合場で大声を出し応援や指示をする場合には、厳しくコントロールする。大会主催者は会場放送等で選手間の距離（1～2m 以上離す）も近接している場合には注意する。

(4) 観客・応援者への注意について

大会主催者は会場放送等で試合場周囲の観客席からの大声の応援や身体間距離をとらない応援を注意する。

(5) 選手・監督・コーチ・役員や観客・応援者などすべての参加者に、感染予防措置を守らない場合には途中退場があることを、主催者から通達しておく。

(6) 試合場の清掃、消毒について

出血や汚物などで汚れた会場は、審判員の指示で主催者・係員が必要に応じて清掃・消毒を行う。